

# 北信教育事務所だより

第4号

～教師・学校・地域がつながるために～

令和2年6月22日

## 同期の先生方とつながる喜び 共に語り合える嬉しさ

～北信地区初任者研修「教師力向上研修Ⅰ」初めての参集研修～

先生方の課題や悩みを聞いて振り返ると、自分もできていないと感じ、自分自身を客観的に見ることができました。

子どもとの関係作りが今の自己課題です。



自分の悩みや困りごとと共に共感してもらえて、とても心強かったです。



先生方に話し、聞いて返してもらおう中で、改めて、子どもの願いの大切さに気付きました。

校長先生のお話にあった「子どもに任せて頼りにして誉める」ことで、子どもと共に支え合って成長していきたいです。



言葉にすることで自分の考えがまとまり、共有することで自分一人では見えなかったことが見えて、心がすっきりしました。

「がむしゃらでも一生懸命に子どもと向き合う」校長先生にいただいた言葉を大切にしていきたいです。



6月2日に各郡市の教育会館4会場（更埴教育会館、長野上水内教育会館、上高井教育会館、中野・下高井教育会館）で初任研が行われました。学校再開直後でしたが、北信管内（長野市を除く）36名の初任の先生方全員が元気に参加しました。「自分が目指す授業」について語り合うグループ討議を通して、同じ悩みをもっている仲間がいることを知って安心することができたようです。また、自分にはない視点からの意見をもらうことで自分を見つめ直し、自己課題を明確にしていくこともできました。後半は、中野市立平野小学校長若林幸裕校長先生のご講話をお聞きして、子どもと共に成長できる教師という職業に喜びと責任を感じ、決意を新たにされた先生方でした。自己課題を意識した授業実践に挑戦している初任の先生方にエールを送ります。

## 教師になった希望を自分の言葉で語る初任の先生方(その2)

「初任者のメッセージ」  
第2弾をお届けします。

感染症拡大防止による臨時休業が明け、感染防止の手立てをさまざまに講じての学校生活が再スタートしました。教師になった初心を新たに、今の状況乗り越えていこうという熱いメッセージを、今回の教師力向上研修Ⅰでは、特別支援学校の初任者に書いてもらいました。

今後の初任者研修が、こうした一人一人の声が繋がって、子どもの学びを豊かにとらえることができる教師の資質・能力を育むことができる場となることを願っています。

これまで子どもたちと関わる中でたくさんの笑顔と元気をもらってきました。久々に登校する学校で不安な気持ちから、また学校に来たいと思えるよう、今度は私が笑顔と元気を届けていきたいと思います。

新たな地で子どもたちと関わることを楽しみにしていましたが、長い休業となってしまいました。こんな時だからこそ、先生たちと、子どもたちと、みんなで乗り越え、楽しい学校生活にしていきたいです。

子どものもつ力の大きさに惹かれて教師になりました。イレギュラーなスタートで不安もある中ですが、どんな一年になるのかワクワクしています。子どもと成長していける教師になりたいです。

慣れない環境で大変だなあと感じることもたくさんありますが、生徒たちと過ごす日々がとても楽しく充実しています。大変な時期ですが、一緒にがんばりましょう!!



ペンを握る手に、ぐっと力が入って…(6/2)

生徒とほとんど会うことがなく約1か月が過ぎました。生徒あっての学校だなと、あたり前ですが改めて考えさせられました。毎日が楽しく笑顔でいられるような学校にしていきたいです。

分からなくて悩んだり、戸惑ったりすることばかりですが、子どもたちからたくさん学ばせてもらい、充実した毎日が送れて楽しいです。これからも子どもたち以上に元気に頑張りたいです。

授業が始まり、不安な気持ちと同時にがんばっていこうという気持ちで仕事に向かっています。学校での仕事に慣れるのに加え、変則的なこともあって大変ですが、体調に気をつけながらがんばっていったらと思っています。

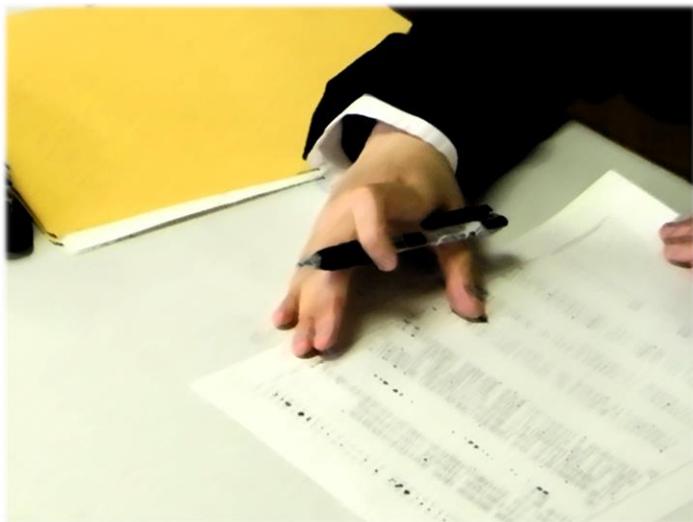
落ち着かない日々だからこそ、なおさら子どもたちに学校って楽しいな、と思ってもらえるよう、遊んだり明るく話したりするようにしています。子どもたちのやってみようという気持ちを引き出せるように先輩の先生方から日々学んでいます。

自分のことを受け止めてくれ、時に厳しくても熱心に指導してくださった先生に憧れて教師を目指しました。私も一歩でも憧れの先生に近づけるようがんばります。

障がいを抱えているお子さんが「今日学校に行ってよかった!」と思ってもらえるような環境づくりをしたいと思います。教師を目指しました。今教師をやっている、いろいろな悩みもありますが、子どもたちと楽しく毎日を過ごすことを目指して頑張ります!

いよいよ休校が明け、学校にも子ども達の元気な姿が見られるようになりました。しかし、コロナウイルス感染防止のため、様々なところで規模縮小や制限がある中ですが、楽しい授業が展開できるようにがんばりたいです。

教師になる夢をかなえた初年度に起きたコロナウイルスとの戦い。前代未聞の時代に初任者として選ばれた私達は何でも乗り越える力を持っているにちがいない!!何が大切かを常に考えながら、コツコツゆっくりやっていきたいと思います。共に歩もう!!



自分の思いを、自分の言葉で書く。(6/2)

障がいのある兄弟がおり、多くの人に支えられて生活している様子を見て、特別支援学校の教員を目指しました。今、生徒との関わりの中で得意なことを見せてくれたり、笑顔で話し合ったりしている、そんな時間に感謝しながら頑張りたいです。

高校時代の教育実習の先生が教員志望になった理由が知りたくて教師を目指すことにしました。小さな路線変更はありましたが、子どもたちのために一生懸命な教師でありたい気持ちは変わっていません。一生懸命頑張ります。

子どもたちと関わる時間が少しずつ増えてきました。コロナウイルス感染に気をつけながら、子どもと同じペースで活動に取り組んでいきたいと思っています。学校で活動できることの素晴らしさを改めて感じました。

周りの存在や支えで、教員になることを決めました。日々学ぶことがたくさん、そして何より子どもと関わることが楽しくて幸せを感じます。

## 当面の初任者研修に関わって

### 指導教員 研修コーディネーター 研修会

7月3日(金)

【会場】

長野合同庁舎 別館大会議室

- ・グループ別討議  
(1学期の校内研修の取組や悩みなど)
- ・1学期研修報告書についての連絡・点検

### キャリアアップ研修Ⅰ 教師力向上研修Ⅱ

7月7日(火)

【会場】

長野合同庁舎 別館大会議室  
上高井教育会館  
更埴教育会館  
中野・下高井教育会館

- ・人権教育学習会
- ・1学期の授業実践を振り返って、自己課題を更新する。(分散会)
- ・悩みや困っていることを語り合う。(分散会)

### 夏期宿泊研修 代替研修

8月中に各校で設定する2日間

- ①信州型ユニバーサルデザイン研修
- ②道徳教育における学習指導研修
- ③生徒指導研修
- ④危機管理研修
- ⑤ICT活用研修
- ⑥外国語教育研修  
(小学校のみ)
- ⑦教科等学習指導研修  
授業づくりを含む

# 明日からの授業にむけて 授業改善につながる

## ～第1回 日々の授業改善 研修会～

5月25日（月）、28日（木）に、第1回日々の授業改善研修会が行われました。  
今回は、参集せずに、授業づくりについてのDVDを事前に視聴した後、  
電話で、授業づくりの相談を行いました。

魅力ある授業づくりのための具体的な姿勢を学ぶことができました。私も沈黙が続くと不安になり、つい多く話をしてしまいます。子どもが追究している時間を大切にできるよう、「大きな耳、小さな口、優しい目」を意識し、心にゆとりをもって授業をつくっていきたいと思いました。（小学校の先生より）



授業について、教師、教材、子どもの3つの視点から基本となる部分を学ぶことができました。今までよく理解できていなかった「主体的・対話的で深い学び」についても、具体的な説明でよく分かり、これからの授業づくりに活かしていきたいです。（小学校の先生より）

活動に苦手意識がある子どもへの対応として、まずは、子どもたちの願いを知ることが大切であると学んだ。どの子ども取り組むことができる場の設定やスモールステップでの場の設定など、少しずつでもできる喜びを味わうことができる授業にしていきたい。（中学校の先生より）

共同追究において、子ども同士が関わり合って活動することが難しい今、子どもの考えを画用紙や付箋などに表し、それらを掲示することで視覚的に共有していくなど、子どもたちが自学の力をつけていくことができるような授業の在り方を学んでいきたい。（小学校の先生より）



“魅力ある授業”という観点で相談しました。中でもアクティブラーニングについて、私はグループ追究をすればよいという安易な考えでした。何を追究するのか明確にすることの大切さや発表する時の注意点など、グループ活動でのアドバイスをいただきました。（中学校の先生より）

♪お知らせ♪

次回は、7月29日（水）を予定しています。今回同様、参集せずに、Zoomを用いたブレイクアウトセッションで、各教科・領域ごとに授業づくりを行っていく予定です。

# 『学びの多様化』をめざして

～オンラインで山間地小規模校の連携・不登校対応に取り組む A 中学校～

実践編

ビ  
フ  
ォ  
ー  
・  
コ  
ロ  
ナ

ウ  
ィ  
ズ  
・  
コ  
ロ  
ナ

ア  
フ  
タ  
ー  
・  
コ  
ロ  
ナ

## 1 山間地小規模校の連携をめざして

A 中学校では平成 30 年度から、自校の「エリアコーディネート教員」を中心に、北信中部内の近隣の山間地小規模校がつながり、教員の力量向上、学習プリントや評価問題の情報提供等を目指して取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症対策で新たな局面を迎え、Web 会議システムを活用した取組も検討しています。

### これまでの取組

・A 中学校を拠点とし、近隣の小規模校6校と数学教育を中心にした取組(平成 30 年度)

「定期テストの共有化」により、

- ①特に若い先生方は、テスト問題を参考に教材研究、授業改善を行っていた
- ②6校教科会で検討、作成は分担して行うことで、負担軽減、働き方改革の推進に成果があった

・数学から他教科へ 合同教科会の取組(令和元年度)

数学のほか英語、社会でも「合同授業」が生まれ、生徒、教師にも近隣の山間地小規模校との連携が広がり、他校との合同授業を实践、学習集団が大きくなって、生徒の思考力・表現力の高まりを確認できた。



### 新たな課題

・一人ひとりの生徒へ丁寧に関わる日頃の授業形態も大切。それを生かしながらいかにバランスよく他校との合同授業を取り入れていくか

### 新型コロナウイルス対応にせまられた運営

・コロナ禍での対応の工夫 オンライン化等(令和 2 年度)

更なる方策としての Web 会議システムの活用により

- ①他教科にも広げての合同教科会の実施(予定)
- ②日常的な連携
- ③Web 会議システムを応用した不登校生徒へのオンライン授業



理科授業 PC で B さんも家庭で授業参加

## 2 不登校傾向の3学年 B さんへのオンライン学習を開始

学校の再開後、通常授業を Web 会議システムで B さん家庭へ配信

・学校は B さんの学習支援をオンラインでの実施を始めました

・Web 会議システムソフト「Whereby」の特徴  
同じ会議アドレスを繰り返し使用可、時間・利用回数は無制限

・B さんもおうちの方も、学習の遅れは最も心配でしたが、「Whereby」を利用し始めてからオンラインでの授業に参加できるようになり、少し気持ちが楽になったとのこと。

### おうちの方の声

○1 時間「Whereby」で授業に参加することができました。終わったあとは「楽しかった」と喜んでいました。チャットで会話できる機能があり、ずっとおしゃべりしていました。

○40 分間数学オンラインで参加しました。参加の仕方について本人と相談し、「時間を決めること(午前中の 1 時間固定)」・「こっそり参加したい」という希望があり、学校で配慮してもらいました。

## 3 これからの展望と課題

### 展望

- ・生徒が多様な考えに出会い、自らの考えを広げ深めることを念頭に学習の中でオンライン化も進める。
- ・新型コロナウイルスの第二波、第三波に備え、自律的な学びを促すオンライン学習の方策を研究する。
- ・働き方改革も含め、学校間の連携のオンライン化を推進する。

### 課題

- ・別室登校等の生徒と学級を結ぶツールとして「Whereby」を使えないか検討している。
- ・今後も想定される災害防疫による臨時長期休業等に対応していくためにも、早期に在宅でもオンライン学習ができるよう一人1台端末の整備を進める。

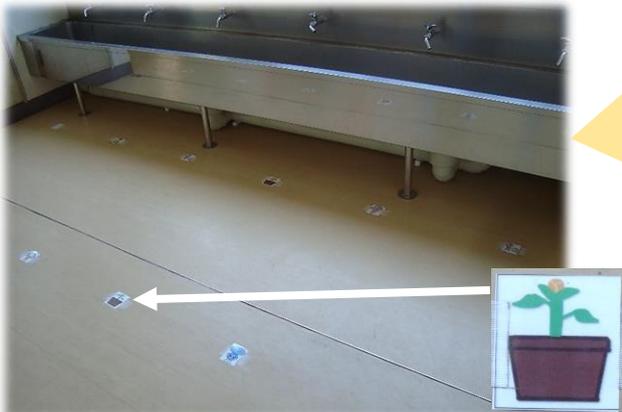
シリーズ

# コロナ禍の中での 各学校の挑戦！

No.1

6月に入り多くの学校で通常登校が始まりました。子どもたちの学びを保障しながら、感染リスクを可能な限り低減させる取組が各学校で行われています。その中から各学校の工夫についてご紹介します。

## 集まる場所での密接・密集を避ける工夫



廊下の水道前の印  
間隔をあけて並ぶように、床に印がしてあります。低学年の児童にも親しみやすいように、花やキャラクターのイラストが貼ってあります。

図書館カウンター前の印  
図書館での本の貸し出しや返却の際の密接・密集を避けるために、カウンター前の床に足形の印がしてあります。



## 教室内的密接・密集を避ける工夫



机の配置を工夫  
理科室の実験台で、互いに向き合わないように、教室用の机を入れて黒板側を向くことで、感染防止に努める工夫をしています。

## 移動する場面での密接・密集を避ける工夫



### 仮設の廊下を設置

教室移動の際など、廊下での他学年との接触による密接・密集を避けるために、普段は利用していない通路にマットを敷いて通行可能にし、動線を分散させる工夫をしています。

## 保健室の工夫



### 体調やけが等により保健室入口を分ける工夫

「具合のわるい人」と「けがの人や用事のある人」の保健室への入口を分け、感染防止に努める工夫をしています。

## 清掃の工夫

床掃除のための用具を設置  
小規模校のこの学校では、床掃除にモップも使うことができるようにして、感染を防止する工夫をしています。



# コロナウイルス感染症と人権

長い歴史を振り返ってみると、いくつもの病気が差別や偏見を生み出してきました。今、人々は新型コロナウイルスの感染だけでなく、人から差別されたり、偏見のまなざしで見られたりする怖さの中にあるのではないのでしょうか。り患した人が、責められ、罪悪感にさいなまれ、悪いことをしたようになっていきます。また、間違った情報を流された人々が、社会からの不当な扱いをされるニュースが飛び交っています。実際に次のようなことが報告されています。

- 感染者の勤務先であるとのデマを流された店舗の経営が悪化する
- インターネット、SNS 上での誹謗中傷やデマを拡散されてしまう
- 医療従事者の子どもが、学校で友だちから心無い言葉をかけられる

## なぜ差別や偏見をもってしまうのか？

「自分も感染してしまうかもしれない」  
「自分や家族が感染したら、いじめられそう」  
などの漠然とした多くの**不安**

特定の対象を嫌悪して捉え、ウイルスと同一視してしまう

「咳をしているからコロナかも」  
「県外ナンバーの車は排除しよう」  
「自宅の庭でもマスクをしないのは不謹慎だ」

**差別・偏見**

不安やおそれを取り除くため、目に見えるものや人を敵とみなし排除することで、自分を安心させようとする

立ち向かうべきは、ウイルスであって、人や物を攻撃しても問題は解決しません。  
正しい知識・認識がないことによる不安が、差別や偏見を生み出しているのではないのでしょうか。

## 絶対に許されない差別や偏見

今、感染症の大きな不安の真ただ中にいるのに差別や偏見で苦しんでいる人たちがいます

- 感染者
- 濃厚接触者
- 医療従事者
- 社会機能の維持に当たっている方

普段でも偏見を持ち、差別的な言動することは許されませんが、感染拡大が心配される今、そのようなことが続けば、差別されるのが怖くて熱があっても病院に行けなくなるなど、かえって感染拡大の危険性を高めることになるかもしれません。

### 想像してみよう

- もし自分がコロナウイルスに感染したら、治療してくれるのは誰？
- 私たちの生活や命が守られているのは誰のおかげか？
- 不確かな噂を流されたり、間違った情報を SNS に書かれたりしたら、どう感じるか？

## 差別や偏見を止めるためにどうしたらよいか？

- 信頼できる機関が提供する正しい情報を得る
- 悪い情報ばかりに目を向けない
- 根拠のない話、うわさ話、差別的な言動に異議を唱え、同調しない

感染拡大の心配が続く中、社会的距離を取る必要はありますが、「心の距離」まで空けてしまってよいのでしょうか。人と人との「心の絆」が必要ではないのでしょうか。移動自粛要請も、自分の地域だけを守っているのではなく、日本全体での感染拡大を防ぐためのものだと認識したいものです。

正しい認識・知識がないところでは、差別や偏見が続くことが考えられます。また、社会全体の人権問題として考え、様々な人々の立場になって想像することも必要でしょう。人権教育の観点から、学校でも機会を見て、子どもたちと一緒に考えるとともに、家庭にも投げかけてはいかがでしょうか。

家庭や学校で子どもに「Aさんのお父さんは感染者が出た会社に勤めているみたいだけど、Aさんは学校に来てもいいの？」と聞かれたら、どう答えられますか？



参考：心の支援課資料「学校人権教育研修会資料」